

阿波市 議会だより

第21号 [平成23年12月1日]

発行/阿波市議会 編集/議会広報特別委員会
〒771-1792 徳島県阿波市阿波町東原173番地
電話 0883-35-4118 FAX 0883-35-4150

平成二十三年第三回(九月)

阿波市議会定例会の概要

九月定例会は、九月七日から九月三十日までの二十三日間の会期で開かれました。開会日には、野崎市長から、まず西長峰工業団地への誘致が決定しているメテック北村株式会社への竣工記念式が九月二十五日行われることになり、地元雇用の拡大、地域経済の活性化に大いに期待していると報告がありました。次に、新庁舎及び交流防災拠点施設建設・給食センター統合・幼保連携施設整備・学校施設耐震整備事業など重要課題について行政報告がありました。このあと、平成二十二年一般会計、特別会計、及び水道事業会計の決算認定、平成二十三年一般会計補正予算などの議案について、概要と提案理由の説明がありました。また、決算審査特別委員会が設置されました。

代表・一般質問では、九人が市政全般について考えを問ひ、防災対策、教育施設の耐震補強、食育推進、産業振興、行財政改革の取り組みなどについて論議されました。

九月二十二日に総務、二十六日に文教厚生、二十七日に産業建設の各常任委員会、二十八日に決算審査特別委員会を開催し、付託された議案の審査を行いました。

閉会日には、委員長による各常任委員会及び決算審査特別委員会の審査報告があり、市長提出議案がいずれも可決・認定され、追加議案として人事案件二件が提出され同意されました。

代表質問

吉川 精二 議員
(阿波みらい)



学校と大俣小学校、二十五年度は市場小学校、林小学校、二十六年度は八幡小学校、柿原小学校を終ると耐震化率が一〇〇%となる計画ですが、前倒しの方向で進める。

解体工事の入札、制限価格の撤廃の方向で検討いただき、(市民の理解が得られる様指名の段階で資格審査するので最低価格で失格することのないように)。

松永 渉 議員
(阿波清風会)



第二次集中改革プランの特徴的な取り組みは何か。

農業を推進するまちを明確化するため、一、担い手の育成

二、農地の保全確保、三、学校給食での地域食材の利用促進、四、農産物のブランド化の推進に取り組む。また、イターンや

森本 節弘 議員
(志政クラブ)



行財政改革について

阿波市まちづくり計画も、半ばを過ぎ、後期まちづくり計画の見直しをどのように考えているか。

社会経済状況の変化及び事業内容の追加を考慮し、後期基本計画と整合を図り、新たな施策を盛り込むこと併せて、財政基盤の堅持と財政推計の柔軟性を高めるため変更手続きに着手したいと考えている。

阿波市中・長期財政計画の考え方について

今日までの前期計画においては、財政的に健全運営がされてきており、今後中・長期財政計画においても健全化基準の範囲内を予想しているが、本市財政構造は、自主財源に乏しく、依存財源に頼った脆弱な体質であることに変わりはありません。

普通交付税の一本算定を見据え、歳入に応じた歳出となるよう見直しを行いながら、強固な財政

一般質問

阿部 雅志 議員
(阿波みらい)



食文化を守るためにも、伝統的な郷土料理など、学校給食にも取り入れてはどうか。

また現在学校給食における副食の和食と洋食の割合は。

学校給食に取り入れている郷土料理は、ばら寿司やそば米汁、そうめん汁等がある。伝統的な日本文化である稲作、米食、和食の食べ方を身につけることは、食文化を継承するうえで極めて大切である。割合については和食五〇%、洋食三五%、中華料理等一五%程度の献立である。

食と環境について、特に学校ではどのような体験学習があるのか。

幼稚園や小学校で、一番多いのは米づくりであり、もみまきに始まり、田植え、稲刈り、脱穀、そして餅つきと体験学習をしている。中学校では、いろいろな職場に二日程度体験学習を行い、農家の体験では野菜の植えつけ等、農家の方と一緒に作業し、体験活動を通して、地域の産業、食文化や食にかかわる歴史などを理解することによって、食物を大事にし、生産者や自然の恵みなどに感謝する心を育んでいる。

交流防災拠点施設を利用して、阿波市の活性化、独自のイベントなど考えているか。

この施設は、市民の交流の場であり、地震等大規模災害発生時における防災拠点としての機能を併せ持つ施設であり、完成に伴い、オープニングイベントは必要と考えているが、具体的な内容は検討中である。

榎原 賢二 議員
(阿波みらい)



阿波市の宝の島「善入寺島」東西六km南北二、六km余り耕作面積三六〇町余り三千名余りの耕作者がいるが、相次ぐ台風により最先が大きく崩落した件について。

東西に広がる吉野川の中州で年間を通して多くの作物を栽培する優良農地で農業立市を目指す本市が全国に誇る宝の島である。市として守り、最大限の努力をしていきたい。

台風十二号による香美大野島伊月に対し鶯谷の水害を堤外に放出、すばやい対応、鶯谷の排水機場の設置について。

国交省にお願いをして毎分六〇トンの能力の排水ポンプ車の稼働をお願いした。市民の財産と安全を守る上で重要課題と認識している。鶯谷の排水機場の設置については、国会議員に現地を視察していただき県と国交省へ引き続き要望活動を行っていききたい。

各旧町の改良区内容及び事務所問題について。

合併以前より旧町の庁舎等の施設を利用している。現在土成町では、土成支所の合同事務所に九つの改良区が一所で事務を統括し、市場町では、市場町中央土地改良区が市場支所三階の一部で、また阿波町では、二か所の旧の法務局跡に阿波中部土地改良区、阿波東部土地改良区が事務をしている。これらの事務所は合併後も市が契約し現在も引き継いでいる。使用料は免除しているが、阿波中部・東部は、光熱費等は自費で負担している。今後、改良区と使用料等に関して十分協議していきたい。尚、吉野一条改良区・吉野町土地改良区・阿波西部土地改良区については、土地、光熱水費等全て自費で賄っている。

原田 定信 議員
(志政クラブ)



台風十二号による本市の農業被害は、また六四五世帯に避難勧告と報道されているが市民の避難行動は非常に低かったとされているが現状をどのように見ているか。

阿波市は、健康の課題として、肥満、糖尿病患者が非常に多い。現在、統合新給食センターが計画されているが、健康課題改善のため、この施設を単なる給食提供の場ではなく、健康増進、食育推進の場として、また、大きくは観光も含めたまちづくりの拠点としての活用も考えるべきではないか。

正木 文男 議員
(阿波清風会)



阿波市は、健康の課題として、肥満、糖尿病患者が非常に多い。現在、統合新給食センターが計画されているが、健康課題改善のため、この施設を単なる給食提供の場ではなく、健康増進、食育推進の場として、また、大きくは観光も含めたまちづくりの拠点としての活用も考えるべきではないか。

新給食センターの基本的考え方、学校給食の調理機能だけでなく、食生活や食の文化、小中学校の児童はもとより、市民全体が学び、食育を推進する場としての活用を考えている。

阿波市は、健康の課題として、肥満、糖尿病患者が非常に多い。現在、統合新給食センターが計画されているが、健康課題改善のため、この施設を単なる給食提供の場ではなく、健康増進、食育推進の場として、また、大きくは観光も含めたまちづくりの拠点としての活用も考えるべきではないか。

問 阿波市の主要産業である畜産の振興は重要であるが、管理不備による環境被害の発生があらわれない。近隣住民同志の間では、十分な監視がしづらな状況があり、行政が積極的に対応すべきと考えるが。

答 行政の対応として、県の畜保健衛生所が年一回畜産農家を回り、巡回指導している。市としてもこれに同行するなど積極的に状況把握に努めたい。

問 合併に伴い阿波市には、未利用財産の発生がある。特に旧阿波庁舎跡地は、更地のままの状況であり、有効活用が望まれる。本土は、旧阿波町の中心部にあることから、地域住民の交流や憩いの場等に寄与するため、旧阿波庁舎跡記念公園というような活用は出来ないか。

答 地元の方から公園にという要望もあり、財政面等を踏まえ、照査、検討していきたい。

江澤 信明 議員 (阿波清風会)



問 東日本大震災以降、阿波市は防災マニュアルを見直したのか。

答 学校防災マニュアルの作成避難所運営マニュアルの充実を図り備蓄品は新年度予算に盛り込みたい。減災の観点から家屋の耐震診断、改修を進めたい。

問 災害時に緊急車両が入れない避難所があるが対策は。

答 現在六三ヶ所を避難所と指定している。消防本部と連携し、はしご車等の走行訓練をして現状を把握している。八幡小学校大影小学校に、はしご車が入れないが、今後とも緊急車両の進入確保に努めたい。

問 ワクチン接種について中学の入学案内と共に、保護者に啓発し呼びかけては。

答 助成制度が継続されれば、教育委員会と協議をしていきたい。

問 子ども手当制度が度々、変更され事務的に混乱しないのか。

答 事務は多くなるが、市民に迷惑はかけません。

池光 正男 議員 (日本共産党)



問 住宅リフォームについて、木造住宅の耐震化につながる安心・安全なまちづくりのために木造リフォーム助成制度確立の必要性についての市の考え方を認識は。

答 中小業者の緊急経済対策雇用促進事業としての市内業者育成の住宅リフォーム助成制度の確立に関して、地域経済の活性化において重要な課題と認識している。個人住宅に対する助成は、耐震化などの安全対策やCO2削減に資する省エネ、環境対策等、政策目的にかなうものを優先課題として、今後とも取り組んでいきたい。

問 市場町上喜来地区山林における開発が行われているが、法令に基づいてやられているのか。

答 現在整備が行われている土地は、個人の山林で、古くはミカンが栽培され、その後長い間栽培は行われていない。事業者に聞くと、ミカン山跡を現在地としており、今後については現在検討中である。ここでの行為は県でも確認しており、法の定めに従い、適切に処理するよう指導されている。市としては、所有者からの相談や計画が出た時点で、その内容や規模に応じ、道路また環境など様々な観点から検討したい。今後の利用計画の内容によっては、市を通じて県に提出する「徳島県土地利用指導要綱」に基づく申請、あるいは市の「阿波市開発事業の調整に関する条例」に基づく開発審議会の審議が必要のため、違法な開発が発生しないよう注視し、法に基づき適切な指導を行っていききたい。

平成23年第3回(9月)阿波市議会定例会 議決結果一覧表

議案番号	議案名	議決結果
報告第4号	平成22年度阿波市健全化判断比率及び資金不足比率について	-
議案第85号	平成22年度阿波市一般会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第86号	平成22年度阿波市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第87号	平成22年度阿波市老人保健特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第88号	平成22年度阿波市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第89号	平成22年度阿波市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第90号	平成22年度阿波市伊沢谷簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第91号	平成22年度阿波市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第92号	平成22年度阿波市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第93号	平成22年度阿波市特定環境保全公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第94号	平成22年度阿波市御所財産区特別会計歳入歳出決算認定について	認定
議案第95号	平成22年度阿波市水道事業会計決算認定について	認定
議案第96号	平成23年度阿波市一般会計補正予算(第2号)について	原案可決
議案第97号	平成23年度阿波市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	原案可決
議案第98号	平成23年度阿波市介護保険特別会計補正予算(第2号)について	原案可決
議案第99号	平成23年度阿波市水道事業会計補正予算(第1号)について	原案可決
議案第100号	阿波市ケーブルネットワーク施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第101号	阿波市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第102号	阿波市立学校施設使用条例の一部改正について	原案可決
議案第103号	阿波市土柱休養村温泉の指定管理者の指定について	原案可決
議案第104号	公平委員会委員の選任について	同意
諮問第2号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	適任

活動状況報告

●徳島県西部市議会連絡協議会議員研修会

10月4日、阿波市において、県西部市議会連絡協議会主催の議員研修会が開催され、総勢100名の議員が出席しました。連絡協議会会長の吉田正 阿波市議会議長、森本哲生 阿波市副市長のあいさつに続き、新潟県立大学准教授の田口一博氏による「地方議会の現状と課題 今議員に求められていること」と題した講演がありました。各市から出席した議員が熱心に耳を傾け、多くの議員からの質疑にも答えていただき、有意義な研修会となりました。

●全国市議会議長会研究フォーラム

10月12日～13日の2日間、青森県青森市の青森市文化会館において、第6回全国市議会議長会研究フォーラムが開催され、議員16名が参加いたしました。

最初に増田寛也元総務大臣が「二元代表制と地方議会改革」と題して講演があり、次に地方自治が専門である大学教授、開催地の議長らが「地方議会と直接民主主義について」と題して、パネルディスカッションがありました。

2日目は、「議会基本条例について」各市議会の議会基本条例制定に向けた取り組みや活動状況の報告がありました。

3日目は、青森県観光物産館を視察し、次に縄文時代の大規模な集落跡である三内丸山遺跡を視察し「ムラ」を体験できる公園を視察研修しました。

●委員会等の開催状況

- 8月31日 議会運営委員会
- 9月20日 庁舎建設特別委員会
- 9月22日 総務常任委員会
- 9月26日 文教厚生常任委員会
- 9月27日 産業建設常任委員会
- 9月28日 決算審査特別委員会
- 9月30日 全員協議会
- 11月11日 議会広報特別委員会
- 11月22日 議会運営委員会
- " 全員協議会



全国市議会議長会研究フォーラムでの研修



全国市議会議長会研究フォーラムでのパネルディスカッション



三内丸山遺跡での研修

議会広報特別委員会

阿波市議会だよりは議会広報特別委員会が編集しています。今後も、定例会の報告や議会の活動状況を、市民の皆様にお伝えしていきたいと考えています。

<委員構成>

- 委員長 正木 文男 (阿波清風会)
- 副委員長 藤川 豊治 (阿波みらい)
- 委員 岩本 雅雄 (阿波みらい)
- 委員 榎原 賢二 (阿波みらい)
- 委員 森本 節弘 (志政クラブ)
- 委員 榎原 伸 (阿波清風会)

議会の傍聴にお越しく下さい。

議会だより 編集雑感

三月十一日世界中を驚かした未曾有の東日本大震災、建物十二万棟が全壊、死者行方不明者二万人にのぼる。しかも津波から生命財産を瞬時に奪われ八カ月を経過しても今だ不明者が三千六百人。又、九月八日には台風十二号による紀伊半島集中豪雨、奈良和歌山で山が崩れ谷が濁流で氾濫し見る間に山も家も崩壊し、押し流され死者行方不明が数十人の大惨事。又九月二十一日には台風十五号により東京が集中豪雨で電車等全線運転停止で大混乱。今年ほど災害の恐ろしさをしみじみと痛感した事は今までにありません。備えあれば憂いなしの言葉の様に、この度ほど防災センターの必要性を感じたのは初めてです。幸いにして、阿波市は新庁舎建設と同時に交流防災拠点施設建設を予定しています。今回の様な大きな地震や台風を教訓とし市民の皆さんが安全で安心して暮らせる阿波市の為に議員一丸となって頑張っていきたい。

(岩本雅雄)



詳しくは、阿波市HPに掲載しているよ。